

18 眼科医療器械発達史

― 屈折及び眼底検査器械から ―

○奥沢¹⁾ 康正・野中杏一郎²⁾

平成八年五月、日本眼科学会創立百周年にあたって記念事業が盛大に催され、その一つに京都国際会館において『百周年歴史器械展示』が開催された。学会中十五日より十九日迄会場には各大学及び演者、共同演者他多くの人々から借用した江戸期を含め、特に明治以降の多くの眼科医療器械が展示され、その総数は二千点以上となり、秋篠宮殿下、同妃殿下を迎え多くの見学者を得た。展示された光学器械は、幸いにも演者を含め数人の所蔵家により、多くは使用可能な状態で保存されていた。展示方法は次の様な順序でもって各セクション別に展示された。さらに明治・大正期及び昭和期の診察室が全て同時代の器械・設備を利用して復元展示された。

(1) 屈折測定器

(2) 両眼視機能検査器

(3) 視野検査器

(4) 色覚検査器

(5) 前眼部診断器械

(6) 眼圧計、隅角鏡、眼底血圧計

(7) 眼底診断機器

(8) 電気生理診断機器

(9) 手術・治療用機器

(10) コンタクトレンズ

(11) 眼鏡と眼鏡ケース

(12) 義眼

(13) 点眼薬などの治療用器械(瓶)および付属品(眼帯、包帯など)

(14) 漢・蘭折衷時代の道具(含む眼球模型、眼病図譜・書籍・雑誌など)

(15) 眼科医と切手

(16) 眼科史に名を残した人々

(17) メダルに輝いた眼科医達

(18) 眼科学術雑誌(創刊号)・明治期における眼科学書、

講義写真、など

(19) 大学、診療室外来、手術、器械風景

次いで六十三項目百十三枚のパネルを作成し、パネル中に明治期より刊行された数十冊の眼科学書及び医療機械カタログに載せられた眼科医療器械の写真をピックアップ、再撮影し、これを項目別に分類、説明文を提示し器械の変遷を壁面に添えて視覚的に訴えた。

明治初期の眼科学書には当時の外国書からの転写も多く、カラー刷り医療器械の写真を見る事は出来ないが、明治末期から大正期にかけては眼科医療器械単独のカタログ発行を見、特に昭和初期にかけて日本製の眼科医療消耗品や手術器械、器具セット等小器械の広告が眼科諸雑誌にも多数掲載され始める。大正・昭和初期の光学器械の発展には多くの眼科医達の発案、考案が見られ、試作器械を使用した臨床報告が数多く発表され、これに医療機械店が加わりさらに改良を積み重ね、中には日本独自の光学器械の開発を見る。なおこれ等「歴史器械展示」は日本眼科の史料として日本眼科学会百周年記念誌第六巻「日本眼科の史料」に載せられた。歴史展示には展示

委員長、石川 哲をはじめ展示協力者、共同研究者の総数四十六名の多きに達した。今回は演者が関わった展示の概要と屈折・検眼鏡の発達史の流れと、新史実について特に考察したい。

- (1) 京都市
- (2) 松本市